

**平成30年度  
自閉症スペクトラム トピックセミナーin旭川 開催要項**

日 時 【1日目】 平成31年3月23日（土）9:45～16:30  
【2日目】 平成31年3月24日（日）9:15～12:00  
場 所 旭川勤労者福祉会館 旭川市6条4丁目

- ◎ 目 的 自閉症スペクトラムの人は脳の中で情報を伝達する働きに違いがある事から、学習、思考、理解の仕方に違いがあります。それを周囲が理解していないと、能力を十分に発揮できません。時には不適應行動という形で現れるケースもあります。私たちは、一人ひとりの学習スタイル（学習、思考、理解の仕方）、機能レベルを十分に理解した上で支援をする必要があります。そこで、本セミナーでは、自閉症を理解した支援を学んでいただきたいと思います。
- ◎ 主 催 旭川市
- ◎ 実施主体 社会福祉法人 北海道療育園
- ◎ 協 賛 つつじの里利用者と歩む家族の会
- ◎ 定員 【1日目】 200名  
【2日目】 第1分科会 40名、 第2分科会40名、 第3分科会 120名
- ◎ セミナー参加費 8,000円（口座振込み）  
※両日料金のみとなります。  
※障がいのある方の家族の方は半額の4,000円となります。  
※定員になり次第締め切らせていただきます。
- ◎ 情報交換会会費 7,000円（口座振込み）  
会場 アートホテル旭川（旭川市7条通6丁目 0166-25-8811）
- ◎ お申し込み方法 必要事項をご記入の上、**郵送**または**メール**にてお申し込みください。  
《北海道療育園HP <http://www.hokuryo.or.jp>》  
（北海道療育園 → つつじの里からのお知らせ）  
《メールアドレス》 [topic@hokuryo.or.jp](mailto:topic@hokuryo.or.jp)  
《郵送先》 〒071-8144 旭川市春光台4条10丁目 つつじの里  
※封筒の表に「トピックセミナー申込」とご記入ください。
- ◆ **申込締切・・・平成31年2月28日** ◆  
※当日の受付はできませんのでご了承ください。  
※振込み後の欠席の場合、参加費はお返しできませんのでご了承ください。  
代理出席などされるようお願い致します。
- ◆お振込み口座・・・自閉症スペクトラムトピックセミナー事務局  
普通預金 口座番号 0860614 旭川信用金庫 末広支店
- ◎ お申し込み後 お申し込み後、お振込みが確認されましたら、受講券等のご案内文をお送り致します。  
※3月8日になっても受講券が届かない場合は事務局までご連絡ください。
- ◎ 交通について 会場の駐車場または周辺の駐車場をご利用ください。（有料）



お問い合わせ

（お問い合わせ受付は平日の9:00～17:30でお願い致します）  
〒071-8144 旭川市春光台4条10丁目 つつじの里  
自閉症スペクトラムトピックセミナー事務局  
担当 篠原・桑原

- 電話番号 (0166) 52-2013
- メールアドレス [topic@hokuryo.or.jp](mailto:topic@hokuryo.or.jp)

# 平成30年度 自閉症スペクトラムトピックセミナーin旭川

日 時 : 【1日目】 平成31年3月23日 (土) 9:45~16:30  
 【2日目】 平成31年3月24日 (日) 9:15~12:00  
 場 所 : 旭川勤労者福祉会館 旭川市6条4丁目

自閉症スペクトラムの人は、脳の中で情報を伝達する働きに違いがあることから、学習、思考、理解の仕方に違いがあります。それを周囲が理解していないと、能力を十分に発揮できません。時には不適切な行動という形で現れ、強度行動障がいという状態になるケースもあります。

私たちは、一人一人の学習スタイル（学習、思考、理解の仕方）、機能レベルを十分に理解し、何を期待されているのか自身で解るようサポートをする必要があります。

そこで、本セミナーでは「自閉症を理解した支援とは」をテーマにし、1日目は「自閉症の人達の学習スタイル」の基調講演と、シンポジウムでは「暮らし」「余暇」「働く」の領域で本テーマに沿って議論をします。2日目は、「幼児期」「学齢期」「成人期」の各ライフステージで、現場で積極的に取り組んでいる実践報告を受け、「自閉症を理解した支援」の重要性を認識していただきたいと思います。

## 【プログラム】

1日目 3月23日 (土)

時 間	内 容
9:15 ~	受 付
9:45 ~	◎オリエンテーション ◎開会挨拶 主催 旭川市 実施主体 社会福祉法人 北海道療育園
10:00 ~12:00	◎基調講演 「自閉症の理解と支援」 大会議室 講 師 安 倍 陽 子 氏 (横浜東部地域療育センター診療部 臨床心理士)
12:00 ~13:00	昼食休憩
13:00 ~16:30	◎シンポジウム 「自閉症を理解した支援とは」 大会議室 コーディネーター 寺 尾 孝 士 氏 (ハロー ENJOY 札幌Ⅱ 施設長) シンポジスト①「暮らし」 中 野 伊 知 郎 氏 (侑愛会 星が丘寮 施設長) シンポジスト②「余暇」 小 田 桐 早 苗 氏 (川崎医療福祉大学 医療福祉学部 講師) シンポジスト③「働く」 小 林 信 篤 氏 (横浜やまびこの里 理事・障害福祉事業部長)
	<p>自閉症の人たちは、得意なところや苦手なところがあります。そして、これは一人ひとり違このことをかかわる側が理解していないで接していくと、自閉症の人たちはとても辛い状態にす。このことが不幸な結果となることがありました。しかし、以前から比べると自閉症の人た性や一人ひとりの機能レベルや得手・不得手を分かった上で、根拠ある支援を展開していくこ多くの成果が上がっています。</p> <p>本シンポジウムでは、3人のシンポジストから話題提供していただき、「暮らし」「余暇」れぞれの場面における、自閉症の人たちを理解した実践的な支援について参加者全員で考えて</p>

	いきたいと思います。	(寺尾 孝士)
18:30 ~	◎情報交換会    アートホテル旭川    (旭川市7条6丁目)	

時 間	内 容
9:15 ~12:00	<p>◎第1分科会 「幼児期」 小会議室B 定員40名</p> <p>コーディネーター 檜 尾 めぐみ氏 (大阪 NPO法人発達障害サポーターピュア 理事長)</p> <p>実践報告① 三 上 尚 子氏 ( NPO法人 岡山県自閉症児を育てる会) (児童発達支援ぐんぐんぴっぴ 児童発達支援管理責任者)</p> <p>松 田 紗 代氏 ( NPO法人 岡山県自閉症児を育てる会) (相談支援事業所 エール1 相談支援専門員)</p> <p>実践報告② 松 井 宏 樹氏 (大阪 NPO法人発達障害サポーターピュア)</p> <p>自閉症は、早期に発見し早期に適切な支援を受けることで子どもの発達が促され、不適応行動などの二次障害を予防することにつながります。どのような情報だと子どもが理解しやすいのか、学習スタイルを把握し、お子さん一人一人の興味関心や発達段階に合わせた構造化のアイデア提供と、適切なコミュニケーションスキルの習得などが必要です。またこの時期は保護者支援も重要です。自己肯定感を育む接し方や、子どもにわかる伝え方の工夫など、子どもの育つ家庭環境を、どのように支えていくのかも大切な役割になってきます。第一分科会では、自閉症の幼児期を中心とした2つの実践報告を受けて、参加者の皆様の実際の現場に役立つことに繋がるよう意見交を行いたいと思います。(檜尾 めぐみ)</p>
	<p>◎第2分科会 「学齢期」 小会議室C 定員40名</p> <p>コーディネーター 澤 月 子氏 (京都 南山城学園 法人本部障害事業部 スーパーバイザー) (湊川短期大学 非常勤講師)</p> <p>実践報告① 松 本 祥 子氏 (北海道平取養護学校 教諭)</p> <p>実践報告② 野 畑 光 代氏 (京都府立向日が丘支援学校 教諭)</p> <p>児童・生徒数は減少の一途にも拘らず特別支援学校・支援学級・通級指導教室の児童・生徒数は増加を続けています。特別支援教育のシステムの整備とともに、保護者の方の期待の表れと聞えることができます。しかし、その期待に応える教育がなされているのか？答えは特に卒業後の行動障害の方への対応が依然として大きな問題となっていることから、学校教育の内実を見直さなければいけないという事だと思います。特別支援学校で、「(視覚支援など)特別なことはしませんが平然と言っている学校があると聞きます。そして、就職率100%を目指す学校も増えてきました。そのどちらもアセスメントなしに子供のニーズと周囲のデマンドが、混同されていることに大きな問題があると思っています。この分科会が卒業後の姿を吟味しながら学齢期はどんな時期なのかを考へたいと思います。この分科会が卒業後の姿を吟味しながら学齢期はどんな時期なのかを考へたいと思います。(澤 月)</p>
	<p>◎第3分科会 「成人期」 大会議室 定員120名</p> <p>コーディネーター 中 野 伊知郎氏 (侑愛会 星が丘寮 施設長)</p> <p>実践報告① 本間 敬紹 氏 (北海道療育園 つつじの里 支援員)</p> <p>桑原 一樹 氏 (北海道療育園 つつじの里 支援員)</p> <p>実践報告② 松 前 ことみ氏 (侑愛会 障害者支援施設 ねお・はろう)</p> <p>成人期の自閉症の方々の暮らしをサポートしていくためには、一人一人のニーズに合わせて個別的な支援プログラムを組み立てられることが重要なことだと思います。そのために支援者は、自らの特性を正しく理解して、一人一人の学習スタイルに基づいた支援を、提案できることが重要です。この分科会では、「成人期の暮らし」をテーマとして自閉症の方々が豊かに暮らしている取り組みについて、つつじの里の桑原氏と、ねお・はろうの松前氏より報告してもらい、根拠とは何か？ということについて議論を深めていきたいと思っています。長いライフステージを支える</p>

の支援を考える一つのきっかけにしてもらえると幸いです

(中野 伊知郎)

12:00

各分科会終了次第解散

平成30年度  
自閉症スペクトラムトピックセミナーin旭川

《 参 加 申 込 書 》

	氏 名	受講券送付先住所	連絡のつきやすい 電話番号	参 加 予 定 (いずれかに○)	2日目 (3/24) 参加希望分科会 (第1～第3を記入)
	所 属				
記入例	あさひかわ たろう	〒 旭川市春光台4条10丁目 071-8144	Tel 0166-52-20	2日間 ・ 1日目(3/23)のみ ・ 2日目(3/24)のみ	第一希望
	旭川 太郎				第 1 分科会
	社会福祉法人 北海道療育園 つつじの里				第二希望 第 2 分科会
①	ふりがな	〒 旭川市春光台4条10丁目	Tel	2日間 ・ 1日目(3/23)のみ ・ 2日目(3/24)のみ	第一希望
					第 分科会
					第二希望 第 分科会
②	ふりがな	〒 旭川市春光台4条10丁目	Tel	2日間 ・ 1日目(3/23)のみ ・ 2日目(3/24)のみ	第一希望
					第 分科会
					第二希望 第 分科会

\* 2日目の分科会には定員がございますので参加希望分科会をお選びください。第1分科会 40名 第2分科会40名 第3分科会 120名  
分科会の定員に限りありますのでご希望に添えない場合がございますことご了承ください。

- \* ご記入いただきました個人情報は、本セミナー以外の目的で使用することはございませぬ（締切日を過ぎてからの申込は事務局までお問い合わせ）
- \* 参加申込締切 平成31年2月28日（木）

情報交換会  
(いずれかに  
○)

参 加

・

不参加

参 加

・

不参加

参 加

・

不参加



ください)